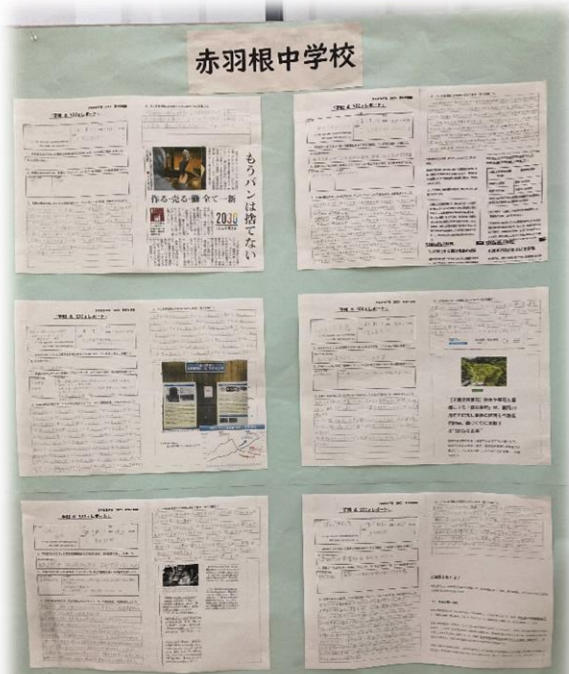


■今年度の活動内容設定時に参考とした「他校の環境に関する取組」 ・学校から保護者への発信方法:紙からICTを活用した電子データへの転換について。 昨年末から少しずつ取り入れていましたが、今後も効果的な運用を進めていきます。					■今年度のグリーンカーテン実施状況 (朝顔、ゴーヤ、へちまなど) <input type="checkbox"/> 実施した <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない		
取組テーマ	取組目標	具体的な活動内容		担当者	活動主体	取り組んだこと、その実績	1年を振り返って
地域環境、地球環境の保全	地域環境や地球環境に関わる基礎を学習し、環境の保全についての考えや心情を育みます。	1	学校周辺の自然について、身近な動植物の存在を知る。(理科)	1年理科担当教諭	1年生	・1年生の理科の授業にて、学校敷地内の植物を調べ、観察して、植物の生活と種類について学習し理解を深めた。 ・2年生の理科では気象現象について、それが起こるしくみについて学び、温暖化対策の必要性を理解し、自分にできる取り組みを考えた。 ・保健体育科の授業にて生活排水やゴミ処理について学び、自分事として身近な生活の中で実践できることを考えた。 ・3年生の総合的な学習の時間ではSDGsについて学習するとともに、茅ヶ崎市の取り組みについて講師を招聘して講義を受けた。今までの取組の重要性を紙面にまとめたり、自分たちに出来ることを検討して話したりし、様々なアイデアを共有することができた。	【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 教科の学びをつなぎ、自然と人間の生活の密接な関係に気づき、現在起こっていることを深く掘り下げて考えることができていた。 【今後の課題】 生徒自身が考えたことを個人としてどのように行動に移せるか、学校の取り組みとして実践していくために必要なことを検討する。 【次年度への引継ぎ事項】 SDGsの学習を3年間通して系統的にすすめていくこと。
		2	雨が降るしくみを基に、水資源の循環について考える。(理科)	2年理科担当教諭	2年生		
		3	空気、水の保全や生活排水、ゴミ処理について考える。(保健体育)	3年保健体育教諭	3年生		
		4	SDGsについて学習し、今までの学びを生かして、個人もしくは学校で実践したいことを考える。(総合的な学習の時間)	3年全職員	3年生		
省エネ・省資源の取組	エネルギー資源について学び、電気・水・物を大切にす生徒の主体性を育みます。	1	電力消費を迎えるため、照明のこまめな消灯やエアコン温度設定について呼びかける。	生徒会担当教諭 生徒会(保健委)	全学年	・生徒会による各クラスの換気を定期的に行った。二酸化炭素濃度測定器の警告がなると生徒が呼びかけ、窓を開け、風の通り道を作る取り組みを推奨した。 ・温暖化対策のための節電の呼びかけを各生徒の委員会活動に呼びかけた。 ・各教室に古紙ボックスを置き、生徒のリサイクルへの意識づけを行っている。	【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 換気については生徒自身の取り組みができた。指数が示されると、可視化されて分かりやすいメリットがある。節電や節水は呼びかけをするも、インフルエンザやコロナ感染防止を優先すると、両立が難しい。 【今後の課題】 移動教室の際の教室の消灯や使用していない階段・廊下などの消灯を生徒各自が意識できるようにしたい。 【次年度への引継ぎ事項】 生徒会を中心に全校生徒の意識を高める活動をする。
		2	流しにステッカーを貼り、節水について呼びかける。	生徒会担当教諭 生徒会(保健委)	全学年		
廃棄物削減の取組	リサイクル活動を推進し、捨てるゴミを削減します。	1	紙の使用量を抑えるため、印刷ミスや使用済みの紙を所定の場所に集め再利用する。	事務職	職員	・裏紙の活用がすすみ、リサイクルが教職員にとって当たり前になりつつある。印刷室、職員室、事務室などに裏が使用できる使用済みの紙をサイズごとに置けるトレーやボックスを用意している。 ・保護者と教師の会にて、制服リサイクルを企画し、基準服36着のリサイクルができた。 ・厚生委員会によるエコキャップ回収、古紙ボックスの設置、インクカートリッジ回収を積極的に呼びかけ、毎月実施することができた。 ・保護者への連絡手段としてCOCOOの活用が大幅に増え、紙面の削減につながった。	【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 紙、ペットボトル、インクカートリッジなどの回収を行うことができていいる。裏紙の使用がより定着してきた。また、ペーパーレス化は昨年より進むとともに、保護者からは電子の方が後から見直したり、確認したりする際に便利であるとの声も寄せられた。 【今後の課題】 伝達方法として、紙面と電子のバランスの検討が必要。 【次年度への引継ぎ事項】 学校情報伝達方法については、保護者の状況や情報の重要度にも着目し、判断する必要がある。
		2	卒業等で不要になる基準服、ジャージを利活用するため、リサイクルの実施。	保護者と教師の会	保護者会		
		3	生徒会でペットボトルキャップ・使用済みインクカートリッジの回収を行う。	生徒会 (厚生委)	全学年生徒		
		4	学校から保護者への伝達方法にICTの活用で紙面の削減を図る。	全職員	教職員		

●写真等の記録:活動や発表の風景等取組の記録を、必要に応じて添付してください。写真等の下に、キャプションをご記入ください。個人情報の取り扱いにご注意ください。



SDGsの取組を市役所および商業施設での披露した様子



インクカートリッジ等の回収ボックス



制服リサイクルの準備を終え、展示した様子

●学校長(推進責任者)によるコメント

【学校長名】
高橋 励

【今後の方向性について】

多様な取組の継続性と形骸化が課題として考えられる。
教科内容につながる学習では、子ども一人ひとりの学びの場面としての活動(授業)ができているが、日常の中の委員会活動などの取組は、実施してきている活動自体が目的としてとらえられている部分を感じる。それぞれの目的意識を丁寧に伝え、そこから委員会活動やその他の活動にいかに関与していくかを考え、個人にできること、集団として取り組めることにつなげられるかを模索したい。
生徒の習慣として身に付いた活動や行動の意味をどのように振り返らせることで、よりよい環境保全のための取組みの継続性につながるか、研究していきたい。